



よこい たつや
横井 達也さん(65歳) れつ子さん(67歳) 飛島村元起

二人三脚で続けていく農業

14アールの畑でネギやホウレンソウなどを栽培している横井さんご夫妻は、昨年の12月より菜々耕房に野菜を出荷しています。「自分は勤め人ですが、父親が農家で、以前から手伝いをしていました。定年を迎えてから、仕事も続けながらですが、本格的に野菜の栽培を行っています」。主に達也さんが栽培を、れつ子さんが出荷作業を行っています。

今年新しい作物の栽培にも挑戦した達也さん。ほ場には立派なトウモロコシが実っていました。産直職員のアドバイスで最盛期より少し早く栽培を始め、時期をずらすことで、競合が少ない中で出荷を行えます。「販売については有利になります。定植などの作業も難しくありません。特に温度管理には気を使いましたが、しっかり育ってくれてとても嬉しく思います」。手間をかけた分、しっかりと応えてくれるのが農業の楽しみだと話す達也さん。普段栽培しているネギやホウレンソウについても、ほ場の清掃や防虫ネットの設置など、丁寧に作業を行うことで病害虫を予防し、

良いものが出来上がります。れつ子さんは平日仕事へ行く達也さんに代わり、出荷の作業を行っています。

「もともと自分たちで食べるつもりで育てていましたが、いろんな人に食べてもらえると分かってもっと頑張ろうと思うようになりました」。並べた野菜が完売するのが産直に出荷していて特に嬉しい瞬間だと話すれつ子さん。他の会員を参考に値段の付け方や売り方を研究しています。

「少し珍しい野菜であればシピをつけてみたり、シールを貼ってアピールしたりして、たくさんの人に買ってもらえるように工夫しています」。メールで届くその日の売れ行きを確認するのがれつ子さんの楽しみの一つです。

今後の目標について何うと「産直に出荷を始めてまだ半年程。栽培も販売も、この一年は勉強のつもりで経験を積んでいきたい」と話します。最後に「自分たちが食べるつもりで育てた野菜です。ぜひ安心して食べてください」とメッセージをいただきました。